

山村に暮らす人々の証言を聞く

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 嵯峨 創平



馬瀬川の小鱼獲り



伊吹山の薬草栽培

聞き書きという手法があります。話
し手の言葉を録音し、一字一句すべて
を書き起こして、文章にまとめるとい
うシンプルな手法ですが、民俗学や文
化人類学では主要な研究方法として世
界中で多様な記録が生み出されてきま
した。最近では日本の高校生達が森・川・
海の名人達人から生活史や伝統的な生
業の話を書いて作品にまとめる「聞き
書き甲子園」というプロジェクトが行
政や企業の支援を受けて展開されてい
ます。この手法がビジネスシーンやま
ちづくりでも活用されるなど「聞き書
き」が今静かなブームを呼んでいます。
なぜでしょう？

筆者はここ10年ほど岐阜県内の山
村に暮らす人々を訪ねて、生業の歴史
や生活の変化についてお話を聞いてき
ました。森林文化アカデミーの学生達
と一緒に聞き書きに取り組むこともあ
れば、個人研究として興味あるテーマ
を追いかける活動もあります。その中
でいくつか興味深い例を紹介しまし
う。

奥美濃地方の明宝歴史民俗資料館
には国の有形民俗文化財指定を受けた
「山村生産用具」や「人生儀礼用具」の民
具資料が多数ありますが、特筆すべき
はそれらを実際に使った体験をもつ語
り手の方が存在することです。実物の
民具を見ることで記憶が蘇りやすくな
ります。ヨキなど山仕事の道具の使い
方を実際に見せてもらいながら話を聞
いたり、山へ持っていくワッパ飯や山
中で材料を調達してお菜やお茶を賄う
やり方、寝泊りする仮小屋づくりの材
料や建て方のお話を聞いた時にはとて
もわくわくしました。

南飛騨地方の下呂市馬瀬地域は馬瀬
川の清流が有名ですが、戦後にアユ釣
りが流行する以前から、アジメドジョ
ウなどの小魚をエという仕掛けで獲る
漁が盛んでした。その設置方法や獲れ
た魚を実際に見せていただいた時も、
自然の恵みの豊かさや食料を獲得する
技術の巧みさに感心させられました。
西濃の揖斐川町春日地域は谷あい
の急峻な地形の中に集落が点在してい

て、水田は僅かしかありません。そん
な環境の下で人々は茶畑や野菜畑を拓
き、貴重な農地を無駄なく使うために、
お茶とコンニャク芋を同じ畑に植え、
畑の畔にも薬草や豆を植えていたそう
です。伊吹山麓にある薬草利用が盛ん
な集落では、薬草の採取時期や乾燥方
法、そして様々な病気に応じて薬草を
用いる民間療法の知恵について詳しい
お話を聞くことができました。

聞き書きを通じて知るこうした山村
文化のディテールやストーリーは大変
興味ぶかく、私は往時の風景や人々の
喜びや苦勞を想像してみたりします。
現代の高校生や都会から移住した若
者達が聞き書きに魅力を感じる感性は
どこから来るのか？ 私なりに解釈する
と、次の3点があるように思います。
①「山村という小さな世界の出来事に
大きな世界の変化が反映している」こ
とを感じ取っている、②「人と自然が
密接に繋がっていた時代の記憶が、未
来の持続可能な社会をつくるヒント」
として読み替えられる、③「人の言葉
を注意深く聞き作品化する為に繰り返し
読む時間が、聞き手の新たな創造力
を生み出す」効果がある。過去の記憶
は無用の長物なんかではなく、知恵の
泉なのかもしれない。それは聞き手の
受容力と想像力にかかっていると思い
ます。